

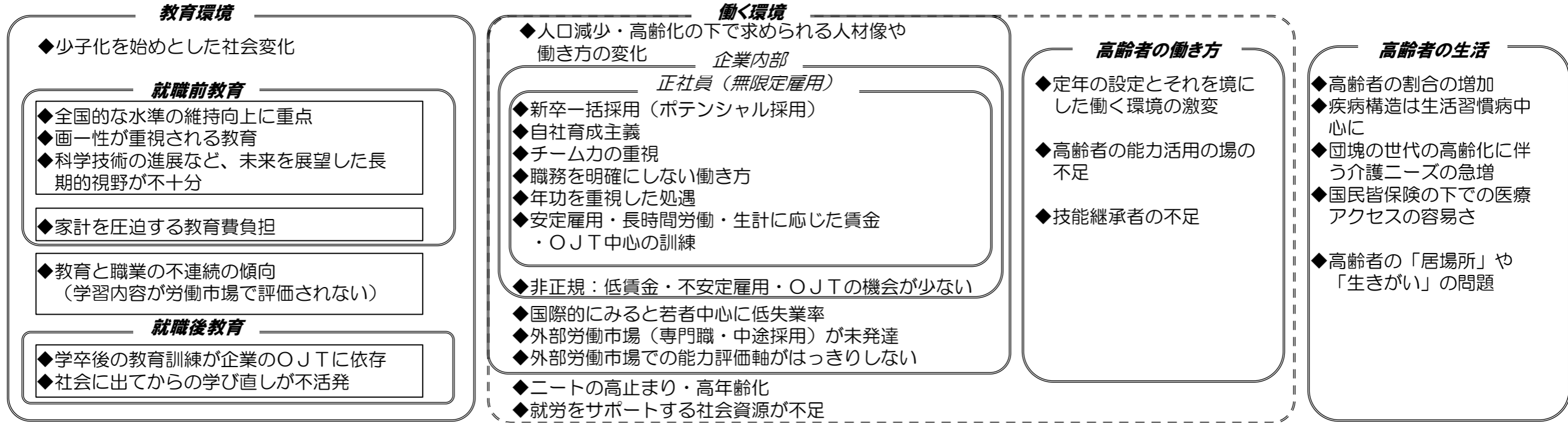
人の活躍ワーキング・グループ主査サマリーにおける提案事項(全体像)

ターゲット 視点	就学前～義務教育	高等学校	大学等 職業生活期	高齢期	
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 政府や企業など社会全体で人に対して投資 ○ 給付型の奨学金の導入など、家庭の経済状況等に関わらない教育機会の確保 ○ 基礎学力とともに判断力や価値観を育む ○ キャリア教育を充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な価値観を受け入れる寛容性を育む ○ イノベーションを生み出せるような実践的教育を受ける機会を増やす ○ 職業スキルを身に付ける教育の一層の充実 ○ 創造性豊かな教員の育成・採用・活用の在り方等の検討など長期的な視点からの教える人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学等でリーダーとしての素養と専門的な力を養成 ○ 学生が海外で学ぶ機会を増やす ○ 大学等において専門的な職業スキルにつながる教育 ○ 個人の所属や経歴によらない職業能力訓練機会の確保 ○ 職業能力を適切に評価し職業につなげる橋渡し支援 		
働き方とその環境			<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育段階で身につけた専門的能力、リーダーとしての資質、留学経験や、個性的な能力の処遇への反映など、多様性に富んだ人材を評価 ○ 正規と非正規で二極化されている処遇の見直しと働き方の多様化 ○ 専門職やスタッフ職などの複線的なキャリアパス ○ ワーク・ライフ・バランスに関し、企業などの組織風土を改善していく取組に対する支援や優れた企業を評価し、オープンにする取組 ○ 中央官庁の国家公務員のワーク・ライフ・バランス改善目標の明確化 ○ テレワークの普及などICTを活用した仕事の効率化 ○ 長時間労働ではなく成果による評価 ○ 就労に関する支援制度を若者に周知 ○ 若者の就業に着目した包括的・継続的な調査 ○ ニートなどの働いていない若者に対する支援と受け皿の用意 ○ 女性の管理職登用についての目標と行動計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者が働ける場の開拓 ○ ボランティア的な就労機会の創出 	
豊かな生活とそ の基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会の共助が希薄化していくことに対する社会的な仕組み ○ 地域の人材が仕事や地域活動等を通して世代横断的に交流していく場の形成 ○ 家族に対する支援の充実 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康寿命の延伸 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 在宅医療・介護のネットワーク化、ICTを活用した在宅支援サービスなどの人生の最終章を安心して暮らせる仕組み

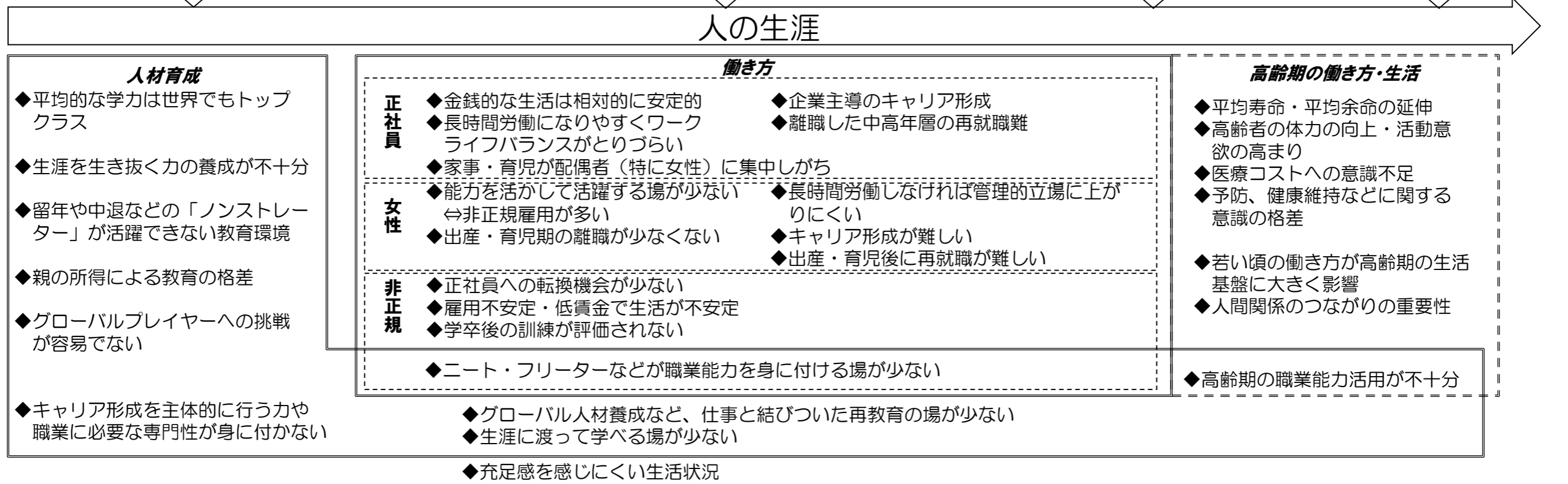
「人の活躍」に関する現状マップ（イメージ図）

戦後高度成長期を経て培われてきた経済社会モデルに最適化した人材育成と労働市場

社会のしくみ



人の現状



社会の課題

グローバル化

少子化・人口減少

地域の存続

安定的な経済成長

格差の拡大

社会保障負担の増加